

佐賀県体育館落成式

市村会長が、私財を投じて佐賀市に建設中であった体育館は、さる37年1月起工し、1年有余の時日を費してこのほど完成した。

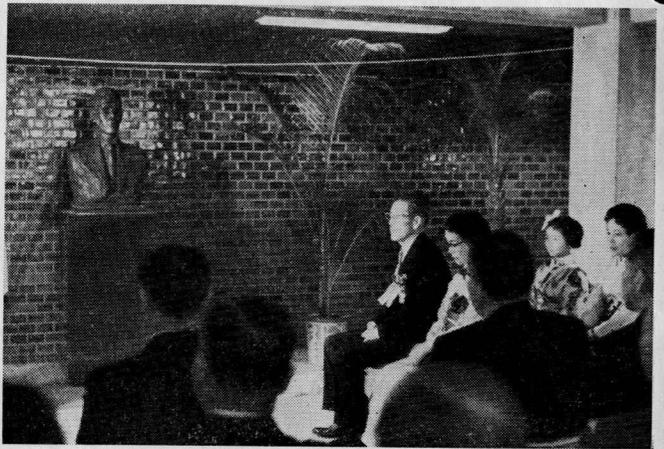
市村会長は、この体育館を出身地佐賀県における青少年スポーツ振興のため、佐賀県に寄贈することにしたが、この体育館の落成式、寄贈式、その功績を永久に讃える同会長の胸像除幕式など一連の行事は、早春の佐賀市赤松町で盛大に行なわれた。

3月11日、県民待望の体育館落成式の朝は、薄曇りながら時折、雲の切れ間から陽がさすほどで、関係行事の準備態勢も支障なく整えられた。

8時30分から来賓の受付が始められ、9時30分、体育館正面玄関前に張られた紅白のテープを市村会長、池田知事が切って、記念すべき新体育館の落成式が始めることになったが、このとき落成式を祝福する数発の花火が打上げられ、同時に色とりどりの風船と百数十羽の鳩が3月の空高く舞上った。

10時10分、豪華な劇場を思わせる館内のステージに設けられた祭壇前には、市村会長夫妻、池田知事夫妻、特別来賓の佐賀県選出国議員保利茂、三池信、館林三喜男、鍋島直紹の諸氏のほか三木武夫代議士、日本体育協会の前国議員大坪保雄氏、文部省体育連盟中島茂氏などが列席し、おごそかな神事がすすめられた。

玉串奉典がすむと、市村会長から体育館設計者の坂倉準三氏、施工者の大成建設会長宮原英雄氏など工事関係者に対して感謝状が贈られ、つづいて市村会長から池田知事に体育館寄贈の目録が手渡された。一千余の来賓席から一斉に拍手の音があがった。



市村会長の胸像除幕式に出席された会長夫妻

次に、池田知事から市村会長に感謝状と、銀製の体育館模型など記念品が贈られ、さらに市村氏の功績に対する国の紺綬褒章が伝達された。

池田知事が市村会長の胸に勲章をつけおわると、佐賀高校音楽部50人による体育館落成祝歌のコーラスが館内を大きく圧してわき起こった。



県立図書館屋上からみた体育館全景

このあと、文部大臣代理の中島体育官、県選出国會議員代表保利代議士、日本体育協会长代理大坪氏、県議會議長山下徳夫氏、県体育協会长金子道雄氏、市町村代表の佐賀市長宮田虎雄氏、報道機関代表の佐賀新聞社長中尾都昭氏、県教育委員長代理西村末六氏からそれぞれ市村会長に対する感謝と、体育館落成に対する祝いの言葉が述べられ、落成式の雰囲気は次第に高揚した。

祝電披露もすんで少憩のあと、ステージでは、市村会長の寄贈による1千7百万円の豪華な緞帳を背景に、市村会長夫人がシテとなって能「狸々」が格調高い地謡の声と笛、鼓の音に連れて舞われ、辰巳孝氏の「八島」、宝生九郎氏の「山姥」の仕舞も演じられた。

こうして落成式は支障なく終わった。

12時15分からは、2階ホワイエで、市村会長の功績を記念するため、佐賀県が郷土出身の彫刻家古賀忠雄氏に委託して製作した市村会長の胸像除幕式が行なわれたが、除幕は市村会長の姪にあたる松岡幸子さんが、特別来賓列席の前で行ない、つづいて池田知事のあいさつ、市村会長の感謝の言葉が述べられた。

胸像の碑文には、

市村清氏つとに郷県教育文化施設の欠けたる
を憂え巨資を投じて本館を寄贈せらる 今落成
に当り胸像を建て永くその盛意を記念す

昭和三十八年三月十一日

佐賀県知事 池田 直

とあった。

除幕式のあと、市村会長夫妻は、2階ベランダに立ち、県下中学生代表の佐賀市城南中学校1年生、山田良夫君、同昭栄中学校3年生、野中満里子さんから感謝の花束を、同成章中学校3年生、宮崎宣弘君から謝辞を受けたが、市村会長はこのとき体育館の玄関前広場に集まった800人の中学生たちに対して激励の言葉を述べた。

この頃、航空自衛隊小月基地の編隊が飛来して、体育館上空をしばらく旋回し、佐賀商工会議所の祝賀パレードが佐賀駅前を出発して市内目貫通りを行進した。

祝賀行事最後の祝賀パーティは午後1時頃から県立図書館前広場の会場で、市村会長夫妻、池田知事夫妻を中心に、来賓1千余人が集って開かれ、1時30分華やかな祝賀行事の幕が閉じられた。